

平成19年度特別展概要

教える×学ぶー師範学校といしかわの教員養成史ー

1. 開催の趣旨

平成20年度、金沢大学は従来の学部制から、「3学域・16学類」という新しい教育体制に再編される。これを機に、今回の特別展示は、本学教育学部の前身にあたる石川師範学校・石川青年師範学校・金沢高等師範学校の歴史と教育を振り返り、当時の地域社会における教育の歴史の実態を理解し、現在・未来の教育についても考える機会を提供する目的で開催した。と同時に、前年度の特別展「四高開学120周年記念展示ー学都金沢と第四高等学校の軌跡ー」に続き本学の前身校と石川県の歴史的な関わりに焦点を当て、改めて現在の本学と地域の関係を見つめ直し、「地域に開かれた大学」の在り方を考える契機としたいという意図もあった。さらに、この展示を通して、「学都」としての地域の魅力がより豊かになることを期待した。

2. 会場・会期・主催

会場：金沢大学資料館 展示室

会期：平成19年10月15日(月)～11月16日(金)

主催：金沢大学資料館・附属図書館

3. 展示の内容

今回の展示は、各師範学校同窓会の全面的な協力のもとに行われた。石川師範同窓会会長滝速雄氏の仲介により、5月下旬石川県文教会館において、各師範学校および本学教育学部の同窓会代表者と本学の橋本哲哉理事・宮下孝晴資料館長以下職員が会合し、資料提供等に関する同会の協力について合意した。

この結果、卒業証書や教員免許状などの証書類、写真、教科書・ノートなどの貴重な一次資料を集め展示することができた。なかでも、第二次世界大戦末期、石川青年師範学校の生徒たちが沖縄戦への派遣を求めて署名・血判し、金沢城内の連隊区司令部へ提出しようとした嘆願状は、当時の学生たちと戦争との関わりについて深く考えさせるものとなった。

また学内の資料調査では、教育学部社会科教育の地理・歴史研究室で、師範学校時代の掛図

などの教材や生徒自身によって作成された研究論文、絵地図・掛図などが発見された。これらは、当時の教育内容を生き生きと再現する重要な展示資料となった。なお展示終了後、歴史研究室の資料が資料館に移管されることとなった。さらに、長年所在が不明であった石川師範学校・石川青年師範学校の校旗が教育学部倉庫から発見されたことは、両校及び本学の関係者を大いに喜ばせた。

4. シンポジウム

10月29日(月)、大学教育開放センターにおいて「金沢大学3学域化と総合大学の教員養成の新機軸ー地域における教員養成の過去・現在・未来ー」を開催した。基調公演では、東北大学大学院水原克敏教授が、今まさに大学における教員養成に取り組んでいる立場から、「教員養成の歴史的構造と今日的課題」と題してお話しされた。その後、パネリストとして、石川県高等学校長協会会長・県立金沢泉丘高等学校校長鈴木庸雄氏、東京大学大学史史料室専任室員谷本宗生氏、本学名誉教授深川明子氏、同副学長鹿野勝彦氏を招き討論を行った。コーディネーターは本学教育学部大久保英哲教授が務めた。来場者数は60名であった。

5. 展示を終えてー結果・反省・課題ー

期間中の来場者は923人を数えた。実施したアンケートによれば、来場者は本学の学生・院生が多く、展示の内容では師範学校の歴史や学生たちの生活に興味が集まった。また、地図・絵図など視覚に訴える資料の注目度が高く、全体的に概ね好評を博した。しかし新聞等メディアでほとんど報道されなかったため、学外の人々が去年に比べて格段に減少したことが悔やまれる。広報の見直しと充実は今後の重要な課題であろう。

最後に、本展示の開催にあたり、ご協力をいただいた多くの皆様に深く感謝の意をささげます。

(堀井)